

3・11 偶然と幸運が重なって、校長の一瞬の判断で 90 人の生命を守った一中浜小学校（宮城県山元町）

中浜小学校が震災遺構として公開されました。震災遺構の保存について、ライフワークとしている私にとっては、本当にうれしいニュースです。中浜小学校を見学する機会がありました。

2011 年 3 月 11 日の午後、3～6 年生は、6 時限の授業中でした。1・2 年生は放課後、校庭で先生と遊んでいました。巨大地震の後で、テレビでは高さ 6m の津波警報が出されました（その後、高さ 10m に訂正される）。中浜小学校は海から 400m の距離にあって、周りは平地です。津波の避難場所は、約 1.2km（徒歩で 20 分）離れた山でした。津波は 10 分ぐらいで来るか mp それない、と判断した校長は、山への避難ではなく、後者の 2 階への避難を決断しました（垂直避難）。

その後、津波警報の高さは 15m ということで、3 階にある屋根裏部屋に避難しました。避難者は、生徒 52 人、教職員 10 人、地域住民 28 人の計 90 人でした。狭い屋根裏部屋で 90 人が 1 夜を明かしました。最低気温は -3°C でした。幸い住民の人が、体育館から水に濡れていない毛布を 50 枚見つけました。食料も水もありませんでした。トイレは、別の場所に設けました。校長先生は、「明日になったら助けに来てくれるから、安心して寝なさい」と生徒たりを励ましました。

翌日、朝 6 時に自衛隊のヘリコプターが来て、全員が救助されました。歩いての救助も考えられましたが、生徒達には見せられない光景だったので、ヘリコプターによる避難にしたとのことです。

90 人の生命が守られたのは、正に様々な偶然と幸運が重なったからです。

- ① 校舎を建設するとき、高さ 2m の盛土をしたこと。このことによって、屋根裏部屋の床の高さは、10m でした。
- ② 第 3 波の津波の高さは 15m だったが、第 2 波の引波とぶつかって、高さが 10m に低くなったこと。
- ③ 町の防災無線が故障したこと。もしも防災無線が稼働していれば、1.2km 離れた山まで避難していたかも。その途中で津波に遭遇したかも。
- ④ 9 日（2 日前）にも、震度 4 の地震があつて、教職員の間で、地震が来た時の避難方法について、話し合っていたこと。
- ⑤ 大地震では停電にならなかったことで、テレビの r 津波警報を聴くことができたこと。等です。

平成 25 年 3 月に、中浜小学校は閉校になりました。閉校式には、多くの卒業生や地域の人たちが参加しました。ちなみに、山元町の名物は、いちごとホッキ貝（ホッキ飯）です。



【3・11 大津波から 90 人の生命を守った一中浜小学校（宮城県山元町）】



【90 人の生徒や地域住民が一夜を明かした屋根裏部屋】

52 人の児童を前に校長先生が言いました。「今夜はここに泊まります。食べ物はあり
ません。水もありません。とても寒くなります。でも朝までがんばろう。暖かい朝日
は必ず昇るから」。夜明けは、希望そのものでした。